

## 万博計画具体化検討ワーキンググループ 議事要旨

日時：令和元年5月23日（木曜日）10時55分～11時45分

場所：リーガロイヤルNCB 2F 淀の間

出席委員（五十音順）：石川委員、齋藤委員、澤田委員、豊田委員、橋爪委員

関西広域連合委員等（ご発言順）：井戸 敏三氏（広域連合長・兵庫県知事）、仁坂 吉伸氏（副広域連合長・和歌山県知事）、西脇 隆俊氏（委員・京都府知事）、平井 伸治氏（委員・鳥取県知事）、西嶋 栄治氏（副委員・滋賀県副知事）、濱田 省司氏（副委員・大阪府副知事）村井 浩氏（副委員・奈良県副知事）、海野 修司氏（副委員・徳島県副知事）、田中 清剛氏（副委員・大阪市副市長）、寺崎 秀俊氏（副委員・神戸市副市長）、奥井 拓史氏（京都市総合政策室長）、柴 信氏（堺市市長公室長）、杉本 達治氏（福井県知事（連携団体））

議事概要：関西広域連合委員等から大阪・関西万博の開催に向けたご意見の紹介とそのご意見を受けてWG委員からご意見を頂いた。主な意見は以下の通り。

（関西広域連合 井戸広域連合長（兵庫県知事））※関西広域連合長としてのご意見

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 関西一体として、どのように万博を盛り上げていくのかが課題である。関西全体で万博を盛り上げるために、共同パビリオンの出展について検討を進めている。
- ・ コンテンツの議論を進める際には若者の意見を取り入れるのがよい。
- ・ 今回の万博の略称は、前回の万博と区別するために「大阪・関西万博」と「関西」を入れていただいているが、関西として取り組ませていただく意味で、希望する各府県市のサテライト会場の設置を柔軟に認め、積極的に採用する形式を取っていただきたい。
- ・ アクセスについては、会場近くの3空港のほか、南紀白浜空港、徳島阿波おどり空港の5空港の連携を念頭に置く必要がある。2025年には関西国際空港の発着枠がフルになっている可能性もある。その関連でインバウンド観光客の受け入れ態勢をどのように作っていくのかが大きな課題となる。会場となる夢洲の東側は道路や鉄道でつながるが、西側は海であり、現在はアクセス手段が存在しない。海上アクセスを今後検討していく必要がある。
- ・ 今年から「ゴールデンスポーツイヤーズ」が始まる。ラグビーW杯（2019年）、東京オリンピック・パラリンピック（2020年）、ワールドマスターズゲームズ2021関西（2021年）が日本で開催される。そのゴールのような形で大阪・関西万博が開催されるので、これらの大きな世界大会を一連のものとして捉えるような位置づけを検討していくことができればよい。

(関西広域連合 井戸広域連合長(兵庫県知事)) ※兵庫県知事としてのご意見

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 関西・大阪万博では関西の健康技術と観光・文化を発信する必要があるだろう。保健医療分野の基盤や高齢社会に対するノウハウの提供、最先端医療技術の紹介等がコンテンツの面で関西の特色を出すことができる分野だと思っている。

(和歌山県 仁坂知事)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 共同パビリオンをぜひ実現したい。展示手法としては最新技術(ARやVR等)と関西の伝統・自然がコラボレーションするような形にできればよい。
- ・ 会場アクセスは重要である。道路関係を充実させた方がよいと思う。完成年月日が明らかではない道路整備については2024年、2025年頃に完成するように投資をしてもらえればよい。それが万博のレガシーとなる。夢洲の会場から各地域を訪れ、楽しんでもらう手段になると思う。

(京都府 西脇知事)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 万博を一過性のイベントではなく、今後のリーディングプロジェクトとして、万博の「次」につなげていくための方向性・コンセプトの整理をしていただきたい。
- ・ 関西広域をサテライト的に位置づけ、周遊・体験・体感する仕組み作りや関西各地の企業・研究施設との連携等により、万博の効果を関西全体、日本全体、世界に広げていただきたい。
- ・ テーマの「いのち輝く未来社会のデザイン」について、その「いのち輝く」がどのように実現され、それも多様な形で実現されていくのかを具体化していただければありがたい。健康長寿や生命倫理までを含む「いのち」のあり方を考え、文化や宗教、哲学等との関係を問いかける場を設ければテーマが深まるのではないかと。
- ・ 未来社会の実装の場、災害対応力、豊かな日本の食文化をコンテンツとして発信いただきたい。

(鳥取県 平井知事)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 夢を皆で共有できるような、世界中の人たちが憧れて訪れるような万博にしていきたい。万博というのは皆が「行ってみたい」という憧れがなければならない。そのためにもコンテンツをしっかりと作っていく必要があると思う。
- ・ 今、クールジャパンやライフサイエンス、自然、豊かな文化を含めた日本に対する関心がある。

- ・ 関西地方の良いところは、日本海側から太平洋側まで貫かれていて、歴史や伝統、日本食の宝庫でもある。単に一つの島（夢洲）としてではなく、広がりを持って、トータルとして関西を売り込んでいくのがよい。
- ・ 観光客に広がりを持って周遊してもらうような誘導を、チケット販売の前から取り組むことが重要である。
- ・ 食は一つのポイントになる。関西の食材を扱う紹介する場があればよい。
- ・ 「夢を見る」という意味において、ライフサイエンス関連の「驚くようなこと」を示すことが重要である。例えば、鳥取ではカニの殻を使い、キチン・キトサンという物質を作り、家畜等に利用している。このような様々なアイデアを見せるためのつなぎを、関西広域連合を構成する各府県市と協議していければよい。

（滋賀県 西嶋副知事）

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 琵琶湖・淀川水系の水環境保全の取り組みをはじめ、豊かな自然と調和する人々の暮らしや、近江商人の「三方よし」の精神、障害者福祉の父・糸賀一雄氏の実践など、こうした思想や歴史、文化、生活をSDGsに通じるものとして広く紹介し、未来社会のデザインを示す場となることを期待する。
- ・ 関西が有する世界に誇れる資産や資源、技術やポテンシャルなどを生かすことで、来るべき未来社会に向けたイノベーション創出の実践の場となることを期待する。併せて、これらを国内外に発信する機会となることを期待する。
- ・ 関西の観光資源の中でも未だ世界的には知られていない観光資源の発信の絶好の機会と捉え、海外からの観光客の各地域へのいざないにつながることを期待する。
- ・ 世界トップレベルの健康長寿を支える日本の食材や食文化をコンテンツとして大阪・関西万博で見せることができればよい。
- ・ 会場計画については、関西全体の共通周遊パスなどの観光客を呼び込むような仕掛けづくりや環境に配慮した会場運営を行うのがよい。会場整備にあたっては関西の企業からの資材調達等を検討してほしい。

（大阪府 濱田副知事）

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 「いのち」をキーコンセプトに、世界の価値観を変えていくとか、新たな価値観を作り出していければよいと考えている。具体例としてはIPS細胞を活用し、人工臓器を展示する等によって、世界の人々があっと驚くような万博を作り上げることができればよい。
- ・ 万博の成功に向けて、1970年の大阪万博と同様に、若いクリエイターを登用していくことや規制緩和等の環境整備が必要ではないか。

- ・ S D G s も大阪・関西万博の柱である。世界各国の発展につながる道筋をつけていくために、世界中のコンテンツを様々な方から提供してもらうような仕組み・仕掛けを作っていくことはできないかと考えている。

(奈良県 村井副知事)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 大阪・関西万博では、未来志向の万博を見ることができるようになることと同時に、これまでの歴史も振り返ることができればよい。それが可能であることが、関西で万博を開催する魅力であると考えている。例えば本県であれば、「日本国家の始まりの地」である奈良を訪れ、豊かな歴史・文化遺産に触れていただきたい。これが奈良県のできる万博の魅力アップへの最大の貢献であり、担う役割であると考えている。
- ・ 各国のパビリオン等が一会場に集中するのが万博の大きな魅力であると考えている。サテライト会場を設けるよりも、夢洲に集中投資するのがよいのではないかと考えている。
- ・ 今回の大阪・関西万博の開催が一時的なブームに留まるのではなく、次世代に継承できる関西や日本の財産の創出につながることを最も重要であると考えている。

(徳島県 海野副知事)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ コンテンツに関しては「いのち」が万博のテーマなので、ライフサイエンスの最先端分野の技術をアピールしていくのが極めて重要ではないかと思う。特に関西はライフサイエンスに強みがあるのでアピールしていくことが重要である。
- ・ 関西は豊かな自然と文化を誇る。それをVR等の最先端技術で体験してもらえようという取り組みがあればよい。
- ・ インフラ整備については会場アクセスが極めて重要と考える。大阪湾ベイエリアの5空港の一つである、本県の「徳島阿波おどり空港」からのアクセスも十分ご配慮いただきたい。また、会場が出来上がるまでに、バーチャル会場をできるだけ早い時期に開設し、アピールすることも重要である。
- ・ 統一されたコンセプトの下に、地方で開催される大阪・関西万博関連のイベントを万博のオフィシャルイベントとして位置づけることができればよいのではないかと考えている。
- ・ 会場のデザインに関しては、人と環境に優しいのは当然として、エシカル消費の視点を持って計画してほしい。

(大阪市 田中副市長)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ ボランティアを含め、幅広い市民が様々な形で参加して楽しめる万博にするべきだと考えている。特に子どもたちにとっては様々な国の人々と対面で接することができる

貴重な機会となる。

- ・ 輸送手段については単に輸送力を確保するという観点だけではなく、移動そのものが楽しく、移動中から既に万博の一部であるという意識を持てるような「楽しい移動手段」を考えてほしい。
- ・ 大阪・関西だけではなく、全国的な機運醸成を目指す広報活動が重要になる。同時に、万博開催中は道路交通や混雑等で地元市民に協力をお願いをしなくてはならないことが発生する。広報網の構築が極めて重要になる。
- ・ 災害時における来場者の避難誘導や必要な物資の確保、外国人へのわかりやすい情報提供等、万博の運営サイドの取り組みも必要である。

(神戸市 寺崎副市長)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ ポートアイランドに神戸医療産業都市がある。1981年に神戸ポートアイランド博覧会が行われた場所である。将来的なサテライト会場の設置も視野に入れ、神戸市として会場輸送や神戸医療産業都市との連携等を含め万博に参画をしていきたい。
- ・ 脱炭素化、水素社会の実現を目指したい。ポートアイランドで世界初の水素100%による熱電供給の実証実験を現在行っている。神戸空港島に水素プラントを建設する取り組みも行っている。大阪・関西万博を契機に水素社会に向けて関西が世界をリードしているということが示されるとよい。
- ・ 1970年の大阪万博の際に神戸発で好評を博したものの一つがUCC缶コーヒーである。世界初の缶コーヒーだが当初はなかなか売れなかった。しかし、万博を契機として売上げが伸びた。万博を契機に関西から新たなイノベーションが生まれればよい。

(京都市 奥井室長)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ ワールドマスターズゲームズ2021関西と、大阪・関西万博は「健康長寿」というコンセプトが一緒である。大阪・関西万博と連動したPRを通じ、多くの方々にワールドマスターズゲームズ2021関西にも参加していただき、健康長寿への意識・関心の高まりを万博に活かす等、ワールドマスターズゲームズ2021関西のレガシーを万博につなげていくと共に、大阪・関西万博の成果を関西、日本の発展につなげていくことが重要だと考えている。

(福井県 杉本知事)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマである。多様な生物の「いのち」という観点もあるが、まずは人が生き生きと輝くことが非常に大事である

と思う。

- ・ インターネットやバーチャルの時代になり、生活から遊離したところで様々なことが進む。ストレスを自分の中に溜めない生活やライフスタイルを提案できるような万博にする必要がある。
- ・ 万博後、北陸新幹線が2030年頃につながる。北陸新幹線は関西の人々の生活に密着していくと考えている。京都から小浜まで移動時間19分、料金2,110円で結ばれる。大阪や京都で働きながら、自然豊かで人も優しく、食べ物もおいしい小浜に暮らすなど、人々の生き方を豊かにする提案を日本、世界に発信していただき、一過性のイベントに終わらないような万博にできればよいと考えている。
- ・ 福井には、年縞というSDGsの実現に向けた素材があるほか、禅の文化や京都へ食べ物を運んできた和食の文化がある。ストーリーを作って発信していければよい。

(橋爪委員)

- ・ WG委員からご意見を頂きたい。

(澤田委員)

- ・ 本日の意見は最もだが、万博にはある種の限界がある。万博が成果を出すには社会全体が熱狂し、動いていくことが非常に重要であると考えている。来年の東京オリンピックに向けて、東京では様々なプロジェクトが動いている。それらの多くはオリンピックと直接の関係はないが、皆が息を合わせて取り組むための一つのゴール地点として、2020年の東京オリンピックを使っている。2025年の大阪・関西万博の会場で何ができるのかも重要であるが、その外側にどのようなプロジェクトを作り出すことができるのかも非常に重要だと考えている。
- ・ 愛知万博では、トヨタ自動車のパビリオンが参考になる取り組みをしていた。トヨタはパビリオンのVIPルームに世界中のディーラーを呼び、戦略等をプレゼンし、もてなしていた。アメリカ館では日本企業に対してアメリカの企業がアメリカを売り込んだ。万博の表側も重要ではあるが、ビジネスセールスも万博の非常に重要な側面である。万博は世界各地から政府の代表はもちろん、関連する企業の方々等のVIPを呼ぶことができる機会となる。そのような人々をどんどん招き、博覧会の会場でビジョンや技術を示し、実際に実装されている姿を見せるべきである。特に技術は生きているものが重要である。実際に技術が現場でどのように稼働しているのかを見せて関西、日本を売り込んでいく。単なる「見世物」に留まらず、日本全体の技術を世界に示していく。そのような博覧会の使い方が実は重要であると考えている。こうした取り組みがあって初めて博覧会全体、社会全体が熱狂し、社会が進展する。
- ・ 1970年の大阪万博では日本中が熱狂した。皆さんと共に多くの周辺事業を作り、「そんなやり方があったのか」と世界の鼻を明かす博覧会にできればよい。

(齋藤委員)

- ・ 本日、似た意見が各府県市から出たことは非常によいことであると感じた。関西圏の周遊等をそれぞれの府県市が考えており、街づくりの際には2025年の万博開催までにSDGs等を会場外でも実装するという念頭に置いてご発言されていると感じた。
- ・ 若手が活躍できる場を作ることは非常に重要である。1970年の大阪万博開催時は当時31歳のコシノジュンコ氏ら若手がどんどん起用されたと聞いている。クールジャパン等の取り組みはあるものの、若手が世界に出ていくチャンスは少ない。そのような機会を作っていただき、仕組みや取り組みを事前に始めていくことができればよいと考えている。

(橋爪委員)

- ・ 本日の議論を整理すると以下の五点になるだろう。
- ・ 一点目として、関西全体として万博に積極的に参加するという明確な意思が示された。関西共同のパビリオンを出展するという構想のご紹介もあった。
- ・ 二点目として、再度、関西の歴史や文化、先端技術の魅力を世界にアピールし、経済・文化の活性化につなげるということを様々な視点からお話しいただいた。先端医療・健康に関する産業や特に食文化に関して各府県市からお話があった。
- ・ 三点目として、会場アクセスに関し、既存インフラの連携等について多くのご意見を頂いた。関西ベイエリア5つの空港の利用や海上アクセスの重要性についてご意見を頂いた。会場内の移動手段も重要であるというご意見や道路整備に関してもご意見を頂いた。アクセスそのものが楽しい体験であることが重要というご意見も頂いた。
- ・ 四点目として、夢洲の万博会場と関西各地が連携し、来場者へ関西各地域への訪問を促すということに関して様々なご意見を頂いた。万博期間中は観光客だけではなく、企業関係者も含め世界中から多くの方が関西に来る。この機会をどのように活かすのかも含め、関西全体で「動き」の活性化ができればと考えている。サテライトの概念は実務上様々な検討するということであるが、関連オフィシャルイベントについてのご意見もあった。関西各地で万博と連携する催事を展開して、盛り上げていければと考えている。
- ・ 五点目として博覧会の前後について様々なご意見を頂いた。開催前については全国的に機運を醸成することが重要である。世界の若者が憧れるような博覧会であるということが会場に行って初めてわかることではなく、事前のプロセスの中で示されるべきであるというお話があった。レガシーを一過性のものにしてはならないというお話もあった。ゴールデンスポーツイヤーズとの連携等、各イベント間のレガシーの連携も考えていきたい。「いのち輝く」というテーマを大阪・関西万博では掲げているので、「い

のち輝く」のあり方とはどのようなものなのか、博覧会の閉会後も世界に示していく責任を持って博覧会を進めていかなければならないと思いを新たにした。

(関西広域連合 井戸広域連合長 (兵庫県知事))

- ・ 万博には我々も当事者であるという意識を持って参加したい。
- ・ サテライト会場を自由に作るようにしていただきたい。例えば、オリンピックのようにあらかじめ聖火リレーの人数やコースが定められている場合、盛り上げるのは困難である。